



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

2020年度活動報告 CJP授業 : レギュラー1B

著者	蔭山 拓
雑誌名	関西学院大学日本語教育センター紀要
号	10
ページ	26-27
発行年	2021-03-31
URL	http://hdl.handle.net/10236/00029328

2020 年度活動報告 CJP 授業：レギュラー 1 B

蔭山 拓（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本授業は、日本語初級学習者を対象とした、週 1 コマの会話表現クラスである。クラスの目標は、基本的な表現を使って、あいさつや、留学生活に役立つ場面別の簡単な会話ができるようになることである。今学期は、開講前から続く新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、開講方針の決定ならびに開講準備のために開講が約 2 週間遅れ（休講扱い）、実際の授業回数は例年より 2 回少ない通算 12 回での開講となった。また、全学・全期を通じてオンラインでの開講となり、しかも本クラスの受講学生が 1 名であったことから、シラバスおよびスケジュールについても柔軟な対応を取ることとし、学習の進め方、クイズの実施方法、課題・試験などについて変更を加えた。使用教材は、当初の予定通り『NIHONGO FUN & EASY Survival Japanese Conversation for Beginners』（ASK PUBLISHING）とした。

2. 授業内容

学期初回の授業では、まず今期はオンライン授業での開講となる旨を説明し、オンライン授業のための環境確認や通信状況の確認を行った。また、シラバスとスケジュールの変更についても説明した。授業は、基本的に毎週 1 課学習することとし、毎課 1 回目の授業で場面と表現と語彙を学習し、表現を使った会話スキットの作成を宿題とし、さらに 2 回目の授業で場面を使った復習クイズと宿題の会話スキットのフィードバックと読み合わせを実施した。そして、期末試験には（例年、複数名の学習者グループによるロールプレイの発表を課すところを、今期は受講学生が 1 名であることから）日本滞在中の日本語使用場面での経験を会話文を交えて書くリポートの提出を課題とした。今期は、特にオンライン化に伴う対応・工夫として、毎課、所定の場面に応じ適切な語彙・表現の使用を試みるロールプレイ・タスクの代わりに、学習した語彙・表現の学外の生活場面での使用を会話スキットとして書く宿題を課した。また、宿題の提出に LUNA を活用して事前に課題ファイルを提出させることで、授業時のフィードバックと読み合わせ練習を円滑に行えるようにした。また、授業時間を通じて、WEB 資料や書記言語コミュニケーション・ツールを画面共有しながら活用することで、課題のフィードバックや補足説明あるいは発展的な学習に柔軟に対応できるようにした。

3. 成果と今後の課題

オンライン化に伴う対応の成果としては、今期は特に受講学生が 1 名だったことも

あり、学生の理解・能力に合わせて学習内容や速度を調整することができ、また学生が学習内容に縛られず自由に質問できるようにしたことで学生にとってより主体的・自律的な学習ができたように感じた。

一方で、オンライン授業で困難だった点としては、書記言語を介した双方向コミュニケーションがある。ZOOM のチャットでは画面が小さすぎるのと仮名の表記が不自由で円滑で分かり易い説明・やり取りが難しいと感じた。また、今回は受講学生が 1 名だったため変更・回避したが、ロールプレイのようなスキットの創作やパフォーマンスはやはりオンライン授業では難しいのではないかと考える。オンラインでは実際のコミュニケーション状況の共有や参照物の共有が難しい。

他方、今後の課題として、学生が時間通りに現れなかったときに何時まで待つ必要があるか、また教師・学生のいずれかが zoom にログインできなかった場合などの連絡方法をメール以外にも決めておいたほうがよいと感じた。今期は受講学生が一名だったために上手く対応できたことも多かった点を考えると、反対に受講学生が多くなった場合の対処方法も考えて置く必要があるだろう。

因みに今期の学期末アンケートの結果¹⁾は、学習者の満足度は高く、全項目にわたって高評価であった。

¹ 有効回答者数は 1 名。